

## 平成28年度各部の重点取組の取組結果

部(局)名	児童部
部(局)長名	橋本 敏子

### 【基本姿勢】

平成27年4月から子ども・子育てをめぐる様々な課題を解決するため子ども・子育て支援新制度（以下「新制度」）がスタートしています。

児童部では、昨年度に続き吹田市子ども・子育て支援事業計画に沿って、教育・保育や地域の子育て支援の各事業を推進し、すべての子どもの育ちが尊重され、子どもの笑顔があふれ子育てしたくなるまち吹田を目指します。

現在、土地の確保が困難なニュータウン地域等での保育所整備の遅れと、新制度のもと子どもを預けて働きたいという保育ニーズの急激な高まり等から多くの待機児童を生じさせています。こうした事態を早急に改善するため、平成28年度は「待機児童解消アクションプラン」にまとめた今後3年間に実施する保育所整備等の施策を着実に推進し、保育の質を低下させることなく、待機児童の解消に向け取り組めます。

### 【達成度について】

A：達成（設定した目標を達成することができた。）

B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）

C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

### 【重点課題】

	重点課題	平成28年度 達成状況
1	待機児童解消の促進	B
2	質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供及び公立保育所民営化	A
3	子育て情報や地域の子育て支援の充実	A
4	児童虐待の未然防止・早期発見と児童及び家庭への支援体制の充実	A
5	障がい児療育の推進	A

部(局)名	児童部
-------	-----

重点課題 1	待機児童解消の促進
--------	-----------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	子ども・子育て支援事業計画に基づいて、保育の需要に見合った保育の量を計画的に確保します。
---------------------	--

活動目標
質の確保された小規模保育施設の整備を行います。
私立保育所等の整備を行います。

具体的な取組実績
待機児童解消アクションプランに基づき、小規模保育事業所の公募を行い、小規模保育改修費等支援事業を活用しながら、小規模保育事業所の整備を行いました。
待機児童解消アクションプランに基づき、保育所の公募を行い、私立保育所整備費助成事業を活用しながら、保育所の整備を行いました。

達成目標
小規模保育施設等で430人分の整備を行います。
私立保育所等で200人分の整備を行います。

達成状況	達成度
平成28年10月と平成29年4月の開所を合わせて、317人分の小規模保育事業所の整備を行いました。	B 一部達成
保育所の増築及び新設により、平成28年度中に240人分の保育所の整備を行いました。	A 達成

総合評価・総括
<p>「子ども・子育て支援事業計画」における保育所等の整備計画を積極的かつ前倒しで進めるために、平成28年度初めに今後3年間に実施する方策をまとめ、「待機児童解消アクションプラン」を策定しました。</p> <p>同プランに掲げた方策の具体化に際し、様々な課題の解決や調整に時間を要しました。結果、平成28年度中の保育枠確保は、目標の約8割に止まりました。</p> <p>平成29年2月には、今年度の目標を下回った分を取り戻すだけでなく、実態を踏まえ実現性が高く、より質の高い保育の提供ができるよう「待機児童解消アクションプラン」を見直しました。</p> <p>引き続き、待機児童の早期解消に向け児童部を筆頭に全庁を挙げ取り組みを進めます。</p>

部(局)名	児童部
-------	-----

重点課題 2	質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供及び 公立保育所民営化
--------	--------------------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	子ども・子育て支援事業計画に基づいて、公立施設の認定こども園化を推進します。また、公立保育所の民営化を推進します。
---------------------	---

活動目標
(仮称)北千里・古江台認定こども園建設作業を進めると共に幼稚園型認定こども園の整備を進め、それぞれの対象園で保護者説明会を実施します。
公立保育所の民営化を推進するため、対象園での保護者説明会を実施します。

具体的な取組実績
(仮称)北千里・古江台認定こども園の園舎建設工事を着工するとともに、新しい園の運営概要等について保護者説明会を実施しました。 幼稚園型認定こども園については、平成28年度から佐竹台幼稚園が認定こども園として運営を開始しました。また、平成29年度移行予定の吹田第一幼稚園及び吹田南幼稚園において改修工事を実施するとともに、入園希望者等を対象に各園で説明会を実施しました。
民営化対象の5園（南保育園、吹田保育園、藤白台保育園、岸部保育園、西山田保育園）で計7回の保護者説明会を実施しました。

達成目標
今年度中に幼保連携型認定こども園新築工事を着工し、並行して教育・保育課程の0歳児～2歳児の指導計画案を作成します。また、吹田第一幼稚園及び吹田南幼稚園の認定こども園への移行に向けた準備を進めます。
南保育園、吹田保育園及び藤白台保育園の移管先事業者を決定します。

達成状況	達成度
平成28年12月、(仮称)北千里・古江台認定こども園の園舎建設工事を着工しました。また、本市初の幼保連携型こども園となる同園で使用する0歳児～2歳児の指導計画案を作成しました。 また、吹田第一幼稚園及び吹田南幼稚園は、平成29年2月に改修工事が完了し、3月には大阪府から認定こども園認定証が交付され、移行準備が完了しました。	A  達成
平成28年6月27日に南保育園、平成29年2月14日には吹田保育園及び藤白台保育園の移管先事業者をそれぞれ決定しました。	A  達成

<b>総合評価・総括</b>
(仮称)北千里・古江台認定こども園整備事業では、平成30年4月の幼保連携型認定こども園開園を目指し、園舎の新築工事を開始しました。今後は指導計画等に沿って保育内容の検討を進める等、ソフト面の準備を行います。また、公立幼稚園の認定こども園化として、平成28年度の佐竹台幼稚園に続き、平成29年度から吹田第一幼稚園及び吹田南幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行しました。引き続き、平成30年度に向け5園の幼稚園の移行準備を進め、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供に努めます。
公立保育所の5園の民営化の取組は、民営化実施計画に基づきそれぞれ着実に進めることができました。平成28年度の具体的な取組としては、南保育園(平成30年度移管予定)、吹田保育園及び藤白台保育園(平成31年度移管予定)3園の移管先事業者を決定しました。さらにより丁寧に保育を引継ぐための保護者、事業者、行政の三者が協議する三者懇談会を南保育園は平成28年7月から開始し、吹田・藤白台両園においても平成29年4月から開始できるよう準備を行っています。また、岸部保育園及び西山田保育園(平成32年移管予定)では、来年度の移管先事業者選定に向け保護者説明会を開催しました。

部(局)名	児童部
-------	-----

重点課題 3	子育て情報や地域の子育て支援の充実
--------	-------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	安心して子育てができるよう子ども・子育て支援事業計画に基づいて、子育て支援サービスを充実します。
---------------------	--

活動目標
のびのび子育てプラザでの利用者支援事業を実施します。
子育て広場運営団体に対する補助金を増額することで、支援の強化を図ります。
病児・病後児保育室の利用対象者を、就労しながら幼稚園を利用されている方にも拡げます。

具体的な取組実績
事業名称を子育て支援コンシェルジュ事業とし、専用電話も開設し、利用者支援専門員による支援を進めました。リーフレットの配布等で広報を充実したこともあり、相談件数は1,000件を超えました。
運営費、光熱水費の補助基本額を増額しました。
平成28年4月1日から、利用対象者を、就労しながら幼稚園を利用されている方にも拡げました。

達成目標
利用者支援専門員を配置し相談窓口を充実するとともに、子ども・子育て支援情報の収集や情報発信を充実し、利用者を必要な子育て支援サービスにつなげます。
「子どもと親にとって」を第一に考えた子育て施策の充実を図り、「支える人を支える」体制づくりを進めます。
病児・病後児保育室をさらに利用しやすいものとする事で利用児童数を増やします。

達成状況	達成度
出張相談会の実施を行うなど、相談できる機会を増やすとともに、関係機関との連携を深めたことにより必要な支援につなげることができました。	A 達成
各子育て広場の状況に応じ、スタッフの配置の強化や設備の更新等が行われ、子育て中の親や子の交流の場のさらなる充実が図れました。	A 達成
平成28年4月から利用対象者を拡げました。延べ利用児童数は3,320人で、前年度に比べて利用が増えています。	A 達成

総合評価・総括
<p>子育てに関する相談体制を充実し、子育て支援コンシェルジュ事業を開始したことで、保護者にとってより身近な相談を実施することができました。引き続き、乳幼児とその保護者に接する機会が多い、保健センターや保育幼稚園室等の関係機関と緊密な連携を図り、市民がより良い解決方法を見つけられるよう努めます。</p> <p>子育て広場では、保護者と児童にとってより充実した居場所づくりを推進しました。</p> <p>また、就労と子育ての両立支援策として、病児・病後児保育室の利用対象者を拡げる等、働きながら子どもを産み育てるための環境整備に努めました。</p> <p>引き続き、全ての保護者が安心して子育てができるよう地域の子育て支援サービスの充実を図ります。</p>

部(局)名	児童部
-------	-----

重点課題 4	児童虐待の未然防止・早期発見と児童及び家庭への支援体制の充実
--------	--------------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	社会全体で児童虐待を防止する環境をつくり、児童の健全な育成を支援します。
---------------------	--------------------------------------

活動目標
児童虐待防止に向けて、関係機関等との連携強化を図る取組を推進します。
児童虐待を防止し、人権を守る意識を高める取組を推進します。

具体的な取組実績
児童虐待防止ネットワーク代表者会議及び実務者会議において、各機関の連携強化に係る取組みや課題の共有、事例検討などの研修を行いました。また、個別ケース検討会議を126回開催し、関係機関と連携しながら支援を行いました。
11月の児童虐待防止推進月間に、被虐待児のケアの実状と課題をテーマに講演会を開催し、62人の参加がありました。また、市内2か所で児童虐待防止を呼びかける街頭キャンペーンを実施し、啓発物品を配布しました。

達成目標
関係機関等へ児童虐待防止に関する研修を実施し、児童虐待事案への対応力向上に努めるとともに、個別ケース検討会議等で円滑な役割分担に努めます。
児童虐待防止のための講演会や啓発物品の配布、Wリボンマークの普及など、啓発活動に積極的に取組みながら、社会全体で子どもの安全を守る意識の向上に努めます。

達成状況	達成度
関係機関への研修をとおして、虐待事案に対する各機関の取組みを共有することで認識を深め、連携強化につながりました。	A 達成
Wリボンプロジェクトの一環として開催した講演会では、参加した市民に児童虐待の現状を伝えるだけでなく、問題を提起することで防止に向けた取組等への認識を深めてもらうことが出来ました。	A 達成

総合評価・総括
<p>児童虐待を早期に発見し、さらに再発を防止するためには、関係機関相互の密接な連携が不可欠です。そのためには、日頃から合同の研修や会議等を開催する等良好な関係を築くとともに、様々な事柄について情報共有を図っておく必要があります。</p> <p>また、地域で子どもを守り、支援していく意識を醸成するためには、市民向けの講演会等による啓発活動が重要です。</p> <p>引き続き、子どもに関係する機関や地域社会と密につながりながら、児童虐待の未然防止・早期発見と支援体制の充実に努めます。</p>

部(局)名	児童部
-------	-----

重点課題 5	障がい児療育の推進
--------	-----------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	障がい児が、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを進めます。
---------------------	-----------------------------------

活動目標
わかたけ園移転後のこども発達支援センター通園療育事業の充実を検討します。
親子教室の再編成等、地域療育事業の充実を図ります。
相談支援事業を引き続き実施します。

具体的な取組実績
杉の子学園で療育を希望する児童が増加しているため、現在60人としている定員を増やすための検討を進めました。 また、杉の子学園の園児に対する作業療法士・言語聴覚士による訓練の充実を検討しました。
待機が発生しているバンビ親子教室の定員増や新たな親子教室の開設に向けて検討を進めました。
相談支援専門員を配置し、引き続き相談支援事業を実施しました。

達成目標
増加する障がい児を受け入れるための体制づくりの具体化を図ります。
親子教室の定員が不足している中、より多くの子どもを受け入れるよう努めます。
相談支援事業により障がい児支援利用計画・障がい児福祉サービス利用計画を通して適切な福祉サービスを提供します。

達成状況	達成度
杉の子学園の定員は、施設の規模等を勘案し、平成29年度から70人とすることをしました。定員を変更するために必要な条例の改正等規定整備の他、定員増に伴う職員体制も整備しました。	A 達成
平成29年度から新たにバンビ親子教室の出張支援教室や3歳児健診事後指導の親子教室を開設する準備を行いました。	A 達成
障がい児の抱える課題や保護者の悩みに対応し、適切なサービス利用ができるよう支援を行いました。	A 達成

総合評価・総括
<p>この2、3年、本市の就学前児童の数が増加していることもあり、支援の必要な児童の増加が続いています。</p> <p>こうした状況の中、平成28年度には児童や保護者に必要な支援が提供できるよう、通園療育や親子教室等の充実にも努めました。平成29年度からはバンビ親子教室の出張支援教室や3歳児健診事後指導の親子教室を開設します。</p> <p>引き続き、障がいの早期発見・早期療育のための施策の充実にも努め、障がい児が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを進めます。</p>